



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. アスパラガス露地栽培圃場での褐斑病の重点防除時期

[要約]

県中北部のアスパラガス露地栽培圃場では、褐斑病に感染・発病しやすい気象条件が6月中旬以降に出現する。特に、7月上旬に初発生の感染が生じ、8月上旬～中旬にかけて病勢進展に係る感染が生ずるため、両時期の薬剤による予防散布が重要である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県内のアスパラガス産地は露地栽培が主体であり、褐斑病が大きな生産阻害要因となっている。本病は感染時期や多発要因など不明な点が多いうえに、初発生を見つけづらく、気づいた時には既に圃場内で蔓延している場合が多い。そこで、令和3～5年に実施した現地露地栽培圃場における調査事例から、褐斑病の感染時期と重要な防除時期を検討し、効果的な防除法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 褐斑病菌の分生子形成条件は気温 15～30℃及び湿度 96%以上であり、分生子が定着すると6～18日で感染し、発病に至る（表1）。特に、気温 20～30℃及び湿度 96%以上の場合、感染・発病に適した条件となる。
2. 分生子は4月下旬以降に圃場内で飛散し（図1）、圃場内の発病が広がるにつれて飛散量が増加する。
3. 褐斑病の感染・発病に適した条件は、県中北部の場合、6月中旬以降に出現し、褐斑病の多発圃場では、7月上旬に初発生の感染が生じ、7月中旬～8月上旬に初発生が認められる（図1）。その後、8月上旬～中旬にかけて病勢進展に係る感染が進み、圃場内で発病が拡大する。
4. 重点防除時期（図1）の7月上旬及び8月上旬に加え、定期的な薬剤防除を実施した圃場では、本病の発生が少ない傾向が認められる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 重点防除時期には、褐斑病に効果の高いベルクト水和剤、ダコニール 1000、コサイド 3000 を使用する。加えて、重点防除時期以外でも、定期的な薬剤の予防散布を徹底する。
2. 褐斑病の発生を抑えるためには、薬剤散布による防除だけでなく、栽培終了後に残渣をバーナーで焼却処理するなど耕種的な防除対策も組み合わせる。
3. 本調査は県中北部の露地栽培圃場で実施したため、作型や栽培地域により、感染時期が異なる場合がある。



[具体的データ]

表1 アスパラガス褐斑病菌の感染・発病に好適な条件

	温度条件	湿度条件
分生子形成	15～30℃	湿度 96%以上
分生子発芽	20～30℃	湿度 96%以上
感染・発病好適条件	20～30℃	湿度 96%以上

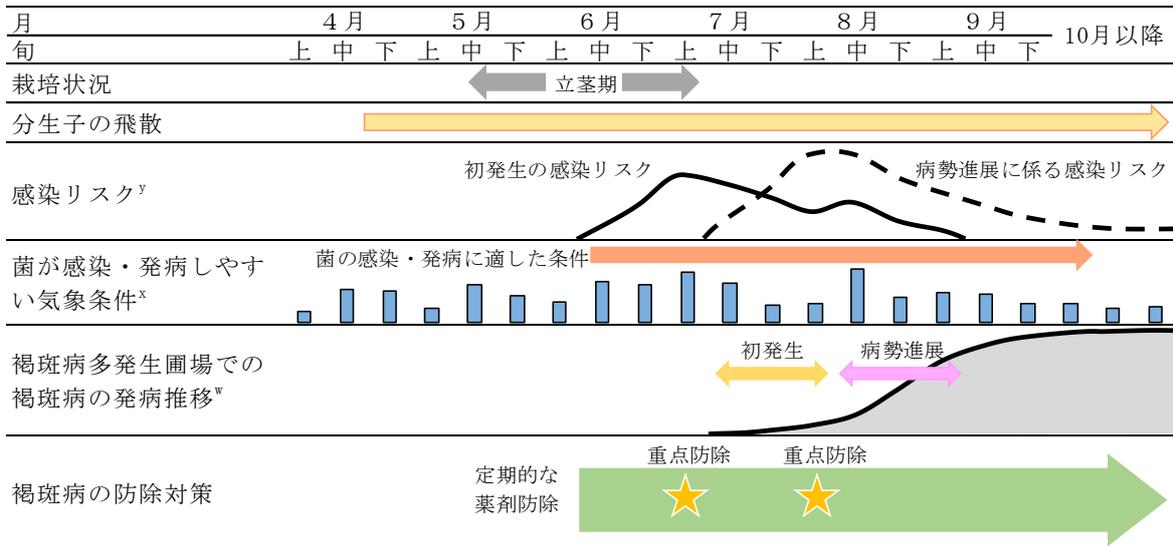


図1 露地栽培圃場におけるアスパラガス褐斑病菌の感染時期の推定と重点防除時期²

² 調査期間：令和3～5年、調査圃場数：露地栽培 11 圃場（高梁市、鏡野町）

³ 初発生の感染リスク：初発生の要因となる感染が生じたと推定された圃場数、病勢進展に係る感染リスク：病勢進展の要因となる感染が生じたと推定された圃場数

⁴ 矢印は菌の感染・発病に適した気象条件の出現期間、縦棒は高梁・津山での令和3～5年の3年間の平均降雨日数を示す

⁵ 令和3及び5年高梁市及び鏡野町の多発生5圃場における発病度（平均値）の推移を示す

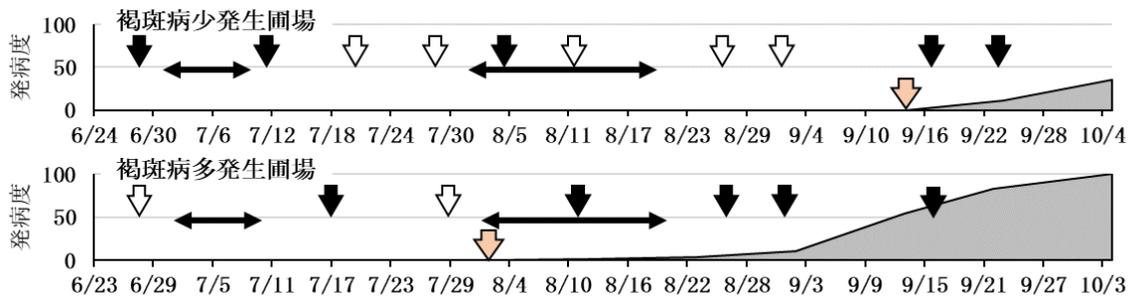


図2 各圃場における斑点性病害の発病推移と殺菌剤散布状況

➡ 褐斑病の初発生確認日
 ➡ 褐斑病に効果の高い薬剤
 ⇄ 褐斑病の登録薬剤
↔ 初発生又は病勢進展に係る感染リスクが高い時期

[その他]

研究課題名：アスパラガス斑点性病害の発生実態の解明と防除対策の確立

予算区分・研究期間：交付金（難防除病害虫防除技術対策事業費）・令和3～5年度

研究担当者：矢尾幸世、井上幸次

関連情報等：試験研究主要成果、[令4 \(75-76、77-78\)](#)